

南会津 田代山 & 大嵐山

大塚 忠彦

◎日程 2014年9月29日(月)～30日(火)

◎メンバー 赤澤(L)、斎藤幸子、斎藤光子、西田、
萩原、岡田、塚本、大塚、以上8名

右の図柄は一体何に見えるであろうか？カーボーイハット？
皿の上に盛られたプリン？ 残念ながらどれも外れデシタ。

これは、会津高原の南西端の尻尾が尾瀬や
奥日光に喰い込んでいる南会津の秘境・帝
釈山脈の田代山(1971m)にかけて住んで
いた天狗が自分の棲家を上空からスケッチ
したもので、今でもここら辺りを飛んでい
るイヌワシは毎日この様な光景を眺めてい
るのだそう。

実は、プリンに掛けられたキャラメルの
部分は、この山の天辺に見渡す限り一面に
広がる湿原で、全国的にも珍しい景観であ
るらしい。会津方面では田圃や湿原を“田代”と呼び、尾瀬ヶ原には「タソガレ田代」だの「背中アブリ田代」だの「ノメリ田代」などという名の付いた餓鬼田もある。ここ田代山の山頂湿原帽子は、水捌けの悪い地層に雨雪が溜まって出来たもののだそうで、またそのことが植生を豊かなものにしていて花の百名山にもなっているそうだ。

さて、南会津はやっぱり遠かった。東北道を降りてから那須を越え、かつて会津の殿様が参勤交代に使ったという会津西街道から館岩街道に入り、山峡の秘湯・湯ノ花温泉からの曲がりくねったガタガタ林道を車の腹を擦りながら登ってやっと猿倉登山口に着いた時は、都心を出てから5時間以上が経っていた。途中の開墾畑では白い蕎麦の花が満開で、会津は既に秋の最中であつた。

登山口からは結構急な登山道を登る。カエデやナナカマドが既に紅葉していて、真っ青な青空に映えていた。「小田代」という山頂下の餓鬼田を過ぎると一気に頂上に飛び出したが、そこには一面の湿原台地とその草紅葉が広がっていた。湿原をグルリと一周して東北地方で一番高い燧ヶ岳や雄大な会津駒ヶ岳の眺望を楽しみ、また100年程前に担ぎ上げられたという弘法大師像を祀る弘法大師堂(現在は兼避難小屋に改築)に詣でた。

登山口に下山して、また延々と狭い林道を車を転がして湯ノ花温泉に下山。宿の到着予定時刻に1時間程遅れたので、予約していた元湯旅館のオカミは、折角の纏まった人数の予約客が本当に来るのか、或いは釣った魚を取り逃がしてしまったかと気を揉んだことであろう。ここ湯ノ花温泉は、4種類の共同浴場が楽しめることで有名であるらしいが、イワナの塩焼きや山菜料理に舌鼓を打っている内に温泉巡りの時間も失せてしまった。

さて、翌朝は雨模様。折角来たのだから何とか止んでくれないかと生憎の空を見上げながら、本日の目標である大嵐山(1635m)の登山口まで滝沢林道を車で登る。幸い降雨もたいしたことは無いようなので、ズンズンと沢沿いの落ち葉径を登って行った。この山は湯ノ花温泉の裏山ではあるが、余り人が



入っていないのか、蔓草が茫々と茂っていて、リーダーの赤澤さんは持参した鎌で道普請をしながら登った。里に近いとはいえ大木が天を突いていて、深山幽谷の気に満ちている。

湯ノ倉山の分岐を過ぎると、やがて径は稜線を絡んで登るようになって南会津の下界が見え始めた。白く見えるのは蕎麦の花満開の開墾畑であろうか。ここでも何の木か分からないが見事に赤く染まった紅葉が見られた。切れ落ちた泥崖を注意して進めば、やがて360度大展望の大嵐山山頂。日光男体山や尾瀬の山々なども指呼の内であった。

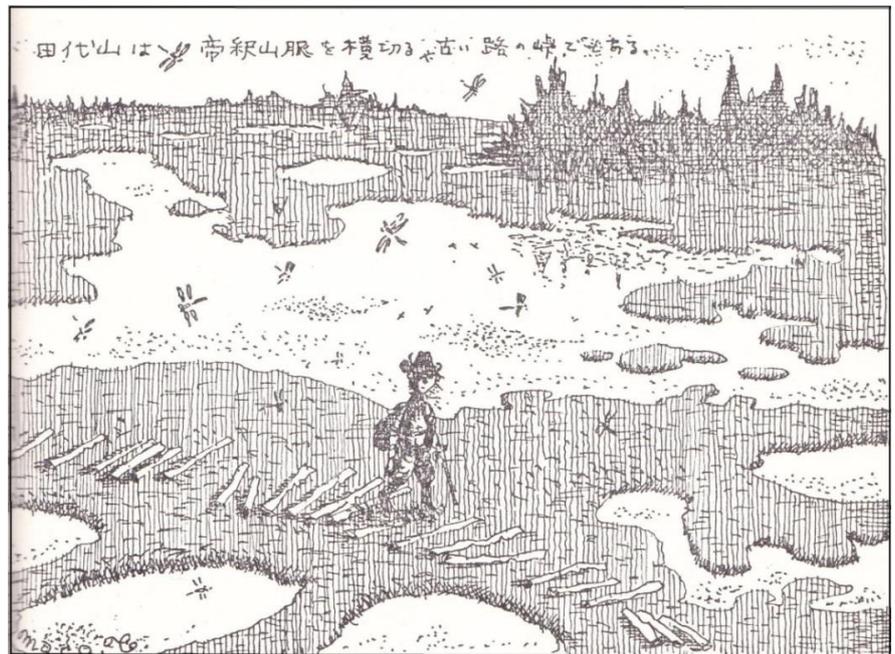
山頂へ登る前の途中の湯ノ倉山分岐で「ワタシ、ここで待っていようかしら？」などと言おうか言うまいかと思索していたかもしれない西田、萩原両お姐さまも元気に頑張って登頂、頂上からの雄大な景色に感激されて、写真の様なにこやかなお顔になられたのであった。



帰路は湯ノ倉山（1343m）山頂経由で大嵐山登山口に戻った。湯ノ倉山山頂へのトラバースルートは落ち葉の絨毯を踏むフカフカの気持ち良い径で、その山頂からは今下ってきたばかりの大嵐山の尖ったピラミッドが鋭く天を突いているのが見え、よくあんな天辺まで登って来たナアと思えた。

今回の南会津の山々は標高はさほど高くないものの、栃木県と福島県を分ける帝釈山脈を形作っている奥深い山々で、関東平野の北の壁ともいえる。山域が深く従ってアプローチも長いので「先達はあらまほしきものなり」であるが、さすがに赤澤さんはこの辺りの山に詳しいので、我々はルンルンのゲスト気分を楽しむことができた。末尾になったが良き先達に感謝する次第である。

かつて、山の画文の名手、辻まこともこの辺りを歩き廻って沢山の紀行画文を残していて、例えば「引馬峠」というのがこの辺りの風物を余さず描写していて興味深いが、ここでは「帝釈山」という短文に付された田代山山頂湿原の挿画を引用してこの報告を終わりたい。



<記録>

9月29日（晴） 9：00東北自動車道羽生SAにて赤澤車・塚本車合流、13：15湯ノ岐・田代林道猿倉登山口、15：10田代山山頂、17：05猿倉登山口、17：40湯ノ花温泉着（泊）

9月30日（雨後晴）6：30朝食、7：10旅館発、7：35滝沢林道大嵐山登山口出発、9：50湯ノ倉山分岐、11：25大嵐山山頂、12：00同発、12：55湯ノ倉山分岐、13：50湯ノ倉山山頂、15：20登山口

※写真は塚本会員撮影、冒頭の図柄は現地パンフレットから引用